

米沢織物産地の展開と機業対応

(東京農工大学連合農学研究科) ○加賀美思帆、(東京農工大学農学府) 小野直達
 Shiho Kagami, Naotatsu Ono : The Development Of Yonezawa Textile Production Area
 And The Response of Weaving Manufactureing

Key Words : 米沢織物産地、先染織物、多品目少量生産、呉服、広幅、市場開拓、

要旨

本報告は、米沢織物産地における機業への聞き取り調査(平成19年10月24~25日実施)をとりまとめたものである。聞き取り調査では、先行研究の沓作冰ら(2005)「米沢織物産地の現状と課題」を受け、その後の米沢織物産地の展開、及び、機業における生産・流通対応を明らかにすることを目的とし、機業経営者に対する面談方式による回答を得た。対象は、米沢織物工業組合、と呉服を中心とする及び広幅を中心とする機業の2社にヒアリングを行った。今回の聞き取りでは、米沢織物産地の特色である先染織物における多品目少量生産の展開に着目して、その展開条件として各機業における市場開拓への取組みを聞き取った。聞き取りの結果として、機業における市場開拓への取組みの実態から、1つは、国内市場に関しては、流通関連企業の縮小を受け、機業自らが売ることにより、小売業者及び消費者のニーズを取り込むことが可能となり、機業自体の商品開発力を高めていること、2つは、海外市場に関しては、社会経済システムの違いにより安定的な受注が確保可能であり、そのことが機業自体の生産性を高めている傾向があること、が推察された。なお、米沢織物産地は不況には他産地に比較して強い産地とみられるが、現下の厳しい条件下にさらされている絹織物産地の今後の生き残り方を示唆するものであり、特に機業におけるマーケットイン、即ち、自ら作り売る、という新しい生産体制への取組みを指摘することが出来る。

米沢織物産地の最近年における生産・流通構造

米沢織物産地は、山形県米沢市内を中心に展開をみせる先染織物産地である。当該産地の発祥は、米沢上杉藩十代目藩主、上杉治憲(鷹山公)であるとされ、長井地方にあった養蚕業を基礎とした絹織物生産を奨励したこととされる。2005年現在、全国47産地に占める生糸・絹糸消費量及び同構成比では、1,573俵、3.12%、第8位となっている。なお、玉糸の消費量では、269俵、56.6%、第1位である。

表1 最近年の生産構造の推移

	2003	2004	2005	2006
機業数(社)	67	66	62	58
従業員数(人)	507	483	458	459
総織機台数	1235	1235	1130	1102
うち広幅織機	68	68	66	66
うち並幅織機	487	487	487	468
うち小幅織機	680	680	577	568
生産実績(億円)	80.0	75.1	71.4	69.6
うち呉服関係	27.0	26.2	25.7	24.4
うち広幅関係	50.0	48.9	45.7	45.2

資料：米沢織物工業組合調べ

ここで表1からは、2003年から2006年にかけて、機業数、総織機台数、及び生産実績はいずれも一貫した減少傾向にある。なお、織機台数の内訳では、主力の織機は小幅及び並幅織機であり、両方で94%を占めている。生産実績の内訳では、主力部門は広幅関係であり、当該期間では62~65%を占めている。よって、米沢産地の場合、和装織物産地の性格が強いとみられる反面、生産実績が

らは、広幅関係が主力となっている。広幅関係では、織機台数では4割、生産額では6割を占める構造となっている（2002年度機業調査より）

表2 素材別品目別生産実績（2006年）

		単位：千円、%							
		絹	交織(絹)	交織(人絹)	合織	綿スフ	総合計	構成比	
呉服関係	コート地	7,636	—	—	—	—	7,636	0.1	
	女物着尺	827,863	—	—	—	—	827,863	11.9	
	女物訪問着	131,678	—	—	—	—	131,673	1.9	
	男物着尺	409,342	—	—	—	—	409,342	5.9	
	夏物着尺	67,804	—	—	—	—	67,804	1.0	
	白生地	28,542	—	—	—	—	28,542	0.4	
	袴地	236,874	26,128	3,925	12,698	—	279,625	4.0	
	座布団地	2,950	13,776	—	8,983	—	25,709	0.4	
	小袋帯	—	3,531	5,832	24,822	8,482	42,667	0.6	
	男帯	167,511	8,208	3,450	34,242	7,215	220,626	3.2	
	名古屋帯	58,679	—	—	5,258	—	63,937	0.9	
	袋帯	78,405	—	—	—	—	78,405	1.1	
	その他帯	21,485	—	—	—	—	21,485	0.3	
	胴裏・その他裏地	188,965	22,390	—	3,129	—	214,484	3.1	
小物グッズ・その他	20,764	—	—	—	—	20,764	0.3		
広幅関係	服地	573,448	303,601	517,189	2,632,149	5,870	4,032,257	57.9	
	輸出服地	131,315	132,335	—	48,249	—	311,899	4.5	
	ネクタイ・マフラー地	177,680	—	—	—	—	177,680	2.5	
呉服関係小計		2,248,498	74,033	13,207	89,132	15,697	2,240,567	35.1	
広幅関係小計		882,443	435,936	517,189	2,680,398	5,870	4,521,836	64.9	
総合計		3,130,941	509,969	530,396	2,769,530	21,567	6,962,403	100.0	
構成比		45.0	7.3	7.6	39.8	0.3	100.0		

資料：表1に同じ

次に、表2は素材別品目別生産実績を示したものである。まず原料別では、米沢産地は絹を主力としながら、合織、交織（絹+他繊維及び人絹+他繊維）の製織である。次に品目別では、服地で58%の生産を占め、前述したとおり広幅関係が主力をなしている。続いて、女物着尺、男物着尺、胴裏・その他裏地と続き、これらが呉服関係の主力製品を構成している。よって、米沢織物産地の製品構成は、先染織物における多品目少量生産となっている。

表3 部門別仕向地別出荷実績の推移

年次	2003			2004			2005			2006		
	全製品	仕向地		全製品	仕向地		全製品	仕向地		全製品	仕向地	
部門	(%)	うち呉服	うち服地	(%)	うち呉服	うち服地	(%)	うち呉服	うち服地	(%)	うち呉服	うち服地
東京	35.6	56.4	43.6	36.8	56.8	43.1	42.6	55.3	44.7	39.8	67.3	32.7
大阪	6.0	17.7	82.3	3.0	23.5	76.5	3.7	23.5	76.5	6.8	13.0	87.0
京都	39.2	62.7	37.3	41.3	58.8	41.2	37.6	62.8	37.2	30.3	65.4	33.6
名古屋	9.6	52.6	47.4	8.6	64.0	36.0	6.8	59.1	40.9	13.3	27.7	72.3
その他	9.3	89.8	10.2	10.4	94.8	5.2	9.3	90.5	9.5	9.7	100.0	0.0

資料：表1に同じ

表3は、米沢織物産地の部門別仕向地別出荷実績の推移である。米沢産地の製品は、その90%は東京、京都等の大都市に出荷されており、この2都市計で70%近くを占めている。また、内訳では、呉服の出荷割合が年々高まっている傾向があり、2006年現在約60%が呉服となっている。なお、大阪のシェアは低いものの服地がうち約80%を占めており、名古屋でも近年、呉服から服地への出荷割合が高まっている傾向がある。